
変形黙示録 -ジェットロン~

スカイワッフル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変形黙示録 - ジェットロン -

【Nコード】

N0049T

【作者名】

スカイワツフル

【あらすじ】

スタースクリーム、スカイワープ、サンダークラッカー、三人合わせて『ジェットロン』は『とある世界』にて活躍していた。が、『トランスフォーマーの神』のミスにより、『さらに違う世界』へ飛ばされてしまう。そしてその世界で、エネルギーを集めようと発電所を襲った一行。だが、そこで目にした光景は異常な物だった。そこは人間が人間を食らい、食われた人間は起き上がり、人間を食らう。そんな《奴ら》だらけの世界で、彼らはある出会いを果たす。

作者から、

はい、この物語は『とある機械の航空参謀』の外伝版です！そんな内容はジェットロンと学園黙示録はクロスです！うん、多分投票は不定期です。そしてトランスフォーマー知らない人はちよっと困ると思います。

じゃないと大変な事になっちゃうよ！

最後に一言。これだけは言わせて下さい。はい。

スタスク「デストロン軍のニューリーダーはこの俺だ！」（失敗フラグ）

始まりは単なるイタズラ（前書き）

スタスク「この馬鹿作者がついに俺達の外伝作りやがった」
スカワ「まあ、それほど俺たちが気に入っているのかね？」
サンクラ「は、どうせ俺は地味な役柄にきまつてる」

始まりは単なるイタズラ

物語は、何処かの世界から始めよう！

その世界の壮大なる大空の中、

「「「ギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアッ！！」」」
「」」

巨大なロボット、いや詳しく言うと、
スタースクリーム、スカイワープ、サンダークラッカーの三人が、
地面へ急降下していた、と言うより落下中である

「「「ウワツツ」」」

3人は積み重なる様に重なる。

ちなみに一番下はスタースクリームで、その後にスカイワープ、サンダークラッカーと言う順番だ。

「お、重い！早く降りやがれこの野郎！」

スタースクリームが全力で立ち上がり、残る2人を吹き飛ばす。

「「ヒドスッ！」」

2人は数秒宙を舞い、地面に転げ落ちる。

「クソツタレ！ここは何処だ？」

スタースクリームが周りを見渡す。

そして彼の表情が尚更険しくなり、拳に力が入った

「ふっざけんな！なんで人間共が暮らす様な汚ねえー場所に居やがるんだ！？これも神の仕業か！」

彼は苛立ちを露わにした。

理由は、最初に居た場所が戦艦基地では無く、人間の遊び場の『公園』だからだ。

公園と言っても様々有るが、木々が生い茂っている。

「なんだってんだ？！俺の肝を抜かす様なサプライズとかってのはナシだぜ！？」

スカイワープが頭を押さえながら言う。

それを察したサンダークラッカーは、

「……はは、ヒューズが飛んだのはお前だけじゃ無い。俺も、スタースクリームも一緒の様だ」

真面目さと笑みが五分五分な表情で言い放った。

彼の事実に言葉にスカイワープは何も言えず黙ってしまふ。

スタースクリームは二人のやり取りを黙って聞いていたが、ある事にきずいた。

「なんだこれは？携帯モニタか？」

スタースクリーンは薄いガラスの様な物を拾い上げる。

これは彼の言うとうり『携帯モニタ』と言う物で、簡単に持ち運べるようにガラスの様に薄くしたコンピュータだ。

と言ってもそれはトランスフォーマーにとって持ち運びやすいのであって、彼等より小さい人間にとっては大き過ぎる代物だ。

「・・・・・・・・・・。」

スタースクリーンはしばらくそれを読んでいたがその一秒後、彼の機械の眼光がさらに赤く、恐ろしく、怒り一色に発光する。

おまけに表情は、ヘビの様に恐ろしい顔と化していた。

理由は、足し算引き算をするより簡単だ。

彼の見たモニタにこう書かれてあったのだ。

スタースクリーンへ、

私だ！神だ！

スマナイ！私が適当にお前等へちよっかい出そうとしたら、間違っ
て『さらに違う世界へ飛ばしてしまった』

悪いが『その世界の物語が終点を迎えるまで、さっきまで居た世界
へ戻れない』

あ、あと……。暇になったらその世界にもトランスフォーマー送るか
らね。

バイバイキーン

神より

ームはその手を振り払う。

「無理だ、この世界の物語が終わるまで帰れないぜ？」

やる気の無い表情を二人に向けた。

だが二人は彼の不甲斐ない表情と、具体的かつ意味不明な説明に納得がいかない。

「「イヤイヤイヤ」」

「だから、物語が終わるまで戻れねえんだよ！」

八つ当たり気味に怒鳴る。

「「・・・・・・・・・・・・・・・・」」

二人は顔を見合わせた。

「「も、物語・・・・・・・・・・？」」

「とにかく、だ。これからエネルギー確保しなけりゃ、力尽きちまうな・・・・・・・・・・」

スタースクリーンは表情を何時もどつりに整え、ある場所を指差した。

「街、か？」

サンダークラッカーが問う。

「そうだな。物語が終わるまでと言っても、エネルギーは必要不可欠。とにかく街にあるエネルギーを根こそぎ貰うんだ」

スタースクリームが得意げに言う。

それに対しスカイワープは半笑いでこう言った

「なんか、久々にデストロンらしい事する気がするんだが、気のせいかな？」

「と言うより、正義みたいな事していたよな」

サンダークラッカーが呆れ気味に言う。

スタースクリームは、ニイとひたすら薄く笑う。

「野郎ども！この俺、ニューリーダーに続け！ジェットロン、アタック！！」

そして何気ない公園に似合わない、ジェットエンジンの爆音が響く

始まりは単なるイタズラ（後書き）

スタスク「神を殺す。そう決意した」

スカワ「いや、神殺すとか無理でしょうお」

サンクラ「お前って目的がコロコロ変わるよな」
デストロン軍のニューリーダー

キチ イへの復讐

神を殺す

スカワ「野心家とか怖いな……」

ジェットロン説明(前書き)

スタスク「俺様の最強の強さが解るぜ！」

スカワ「てやんでえい！自分だけパワーアップしやがって！」

サンクラ「いいもん……………どうせ俺なんて地味な兵士だよ……………！」

ジェットロン説明

ジェットロンとは？

機械惑星、セイバートロンに住むロボット生命体、『トランスフォーマー』。

彼等の大きさには個体差があるが、少なくともジェットロンの大きさは巨大で、トランスフォーマーにとって『標準』の大きさである。

悪の軍団『デストロン』に所属していた。

その中でも航空戦力が優れており、デストロンの主戦力と言っても過言ではない。

が、リーダーたる『スタースクリーム』が反逆罪で『ガルバトロン』に破壊され死亡。

しかし彼は特別なスパークの持ち主で、死んでもなお幽霊の様に状態で現世にとどまる事が出来、『ガルバトロン』への復讐を試みるがこれまた失敗する。

そして、その時にはジェットロンの中でも指折りの戦士、『スカイワープ』、『サンダークラッカー』も戦死。

だが、『トランスフォーマーの神』によって3人は生き返らせられ、『違う世界へ転生』させられる。

その中で、スタースクリームだけパワーアップする形となって転生させられた。

だが、神の手違いで『さらに違う世界』へ飛ばされ、現在に至る。

注意：ジェットロンはこの三人以外にも多数存在するが、この3人の事を合わせて『ジェットロン』と表記される

キャラクター説明

スタースクリーン

地位 | ジェットロンリーダー（航空参謀）

ビークルモード | F15イーグル

説明

ジェットロンのリーダーで野心家である。

神の力によって、力、体力、速度、耐久力など、全てが大幅に上がっている。

色はグレー、赤、青などである。

過去に、メガトロンを裏切り、自分がナンバー1になろうとしたが、パワーアップして復活した『ガルバトロン』に殺される。

その後、トランスフォーマーの神にパワーアップさせてもらい、違う世界に飛ばされる。だがその世界で活動していたが、さらに違う世界へ飛ばされ現在に至っている。

彼のスパーク（魂）は特殊で、機体が破壊されても幽霊として、この世に滞在できる。『不死身のスパーク』と言っても過言ではない。なお、幽霊体状態では、ロボット、人間、動物、構わずにとり付き本人の意志とは関係なく操る事ができる。

だが、彼にとってこの状態は寒気を感じるらしく、よっぽどの事がないとこの状態にはなりたがらない。

自分の力、スタイルに自信があり、自分の事をハンサムと言うほど。武器は、相手の回路を麻痺させる『ナルビーム』だったが、今は破壊力もある『ナルキャノン』にパワーアップしている。

口の上手さを生かして、脅迫、恫喝など様々な手で、相手を丸め込む事もある。

野心家であるが現在は若干優しくなったイメージがある。

速度がずば抜けて速く、無限のスピードを誇る。普段は加減しマツハ10〜20程度で飛行している。

サンダークラッカー

地位―ジェットロン達成員（航空兵）

ビークルモード―F15イーグル

説明

神に、スパークと機体をコピーされ、スタースクリームのおかげで復活をとげる。

姿はスタースクリームと同型で色は水色とグレーである。

コピー体ではあるが記憶、能力を全て受け継いだためサンダークラッカー本人であることに変わりがない。

武器は火炎放射器によるファイヤーアタックとソニックブーム。

衝撃派を操る事が出来、何処でも衝撃派を生み出せる事が出来る。飛行機特有のジェットエンジンの爆音を消して飛行できる。

仲間が慌てたり驚いたりしている様を指して「ヒューズがぶっ飛び

そうだったってよ」や「ヒューズでも飛んだのか？」などとヒューズにからめて表現するのが癖。

卑屈で事勿れ主義な性格であるが、他のメンバーに比べれば温厚な性格であり、突飛な言動で喧嘩になった仲間をたしなめている。

その為、元々デストロンの『宇宙征服』と言うやり方にあまり賛成ではなかった様子。

この様な事からジェットロンの中で一番『正義の意思』が有る。仲間に地味とからかわれる事がある。

最初はスタースクリームを全く信用していなかったが、現在は彼の事を見直している。

スカイワープ

地位 | ジェットロン達成員 (航空兵)

ビークルモード | F15イーグル

サンダークラッカー同様、神にスパークと機体をコピーされ、スタースクリームのおかげで復活をとげる。

姿はスタースクリームと同型で色は紫と黒である。

コピー体ではあるが記憶、能力を全て受け継いだためスカイワープ本人であることに変わりが無い。

2.5マイル (約4km) の範囲でワープが可能である。武器としてはサイドワインダー、及び可変口径マシンガンを装備している。

愉快的にからかうのが好きという一面もあり、空を飛べないものや小さいものにからかうという事などもしばしば。物事において馬鹿騒ぎする事も多い。

デストロンの中でも『メガトロン』に忠実であった為、デストロン

の意思がジェットロンの中で一番強い。
がしかし、友好関係を築くのが好きとは言えなくもなく、特に極悪
と言う訳でもない。
身分的にはスタースクリームの下に位置しているが、彼とは慣れ慣
れしく接している。

ジェットロン説明（後書き）

スタスク「作者アアアア！ガルバトロンに殺されたとか余計な事書くなアアアい！」

スカワ「これだ。コイツは自分の黒歴史を消そうと必死なようだ」

サンクラ「次回、ついに物語は動き始める！またまた凄い事になっちゃうかも！？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0049t/>

変形黙示録 -ジェットロン-

2011年10月8日17時24分発行